

「航空写真を撮る」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「航空写真を撮る」といっても、ヘリコプターをチャーターすると大変だ。ヘリは飛んだ距離というよりも、飛んでいる時間で料金が決まる。ざっと 1 時間 20～30 万円ぐらいである。しかし、もっと安く済む方法がある。普通の定期便の航空機に乗ればいいのだ。

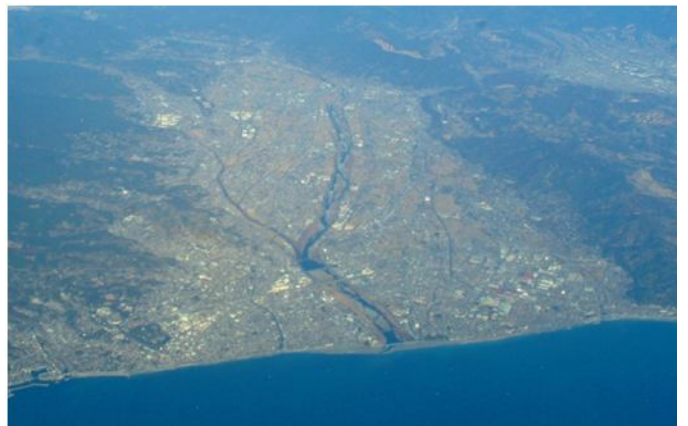
定期航空路は飛ぶ航路がだいたい決まっている。しかし、天候(特に積乱雲の位置)によって、航路が変わる。たとえば、東京から四国まで飛行機に乗ると、富士山の北側を通ることもあるし、南側を通ることもある。南を通ることが多いので、座席は右の窓際がいい。太平洋側のいろいろな地形を撮影できるからだ。



「江ノ島」 陸繋島の特徴がよくわかる。南側(写真手前)の断崖と波もよく見える。



「多摩川の蛇行」 なかなか美しく蛇行している。羽田空港は多摩川河口の左岸に位置しているとわかる。



「小田原市付近」 地形が手に取るようにわかる。中央の川は酒匂川。右側の丘陵は曾我丘陵。曾我丘陵はフォッサマグナの東側の壁(直江津-国府津線)ともいわれている。



「横浜港」 残念ながら自然の地形はまったく見えない。いや、鶴見川は自然の川だ。中央を横切っているのは首都高速。左の橋がベイ・ブリッジ。

鉄道旅行でも飛行機の旅行でも、私は必ず地図を持参することになっている。市販の地図でもいいが、国土地理院の 20 万分の 1 の地勢図が一番適している。地形が立体的に描かれていて、飛行機から見た景観に近い。また飛行機は時速 600km 以上で飛ぶので、5 万分の 1 地形図のような大縮尺の地図では、めまぐるしく風景が流れていってしまい、読図が追い付かないのである。

東京から西に行く飛行機なら、右窓側座席、地勢図持参で搭乗するのが、おすすめである。